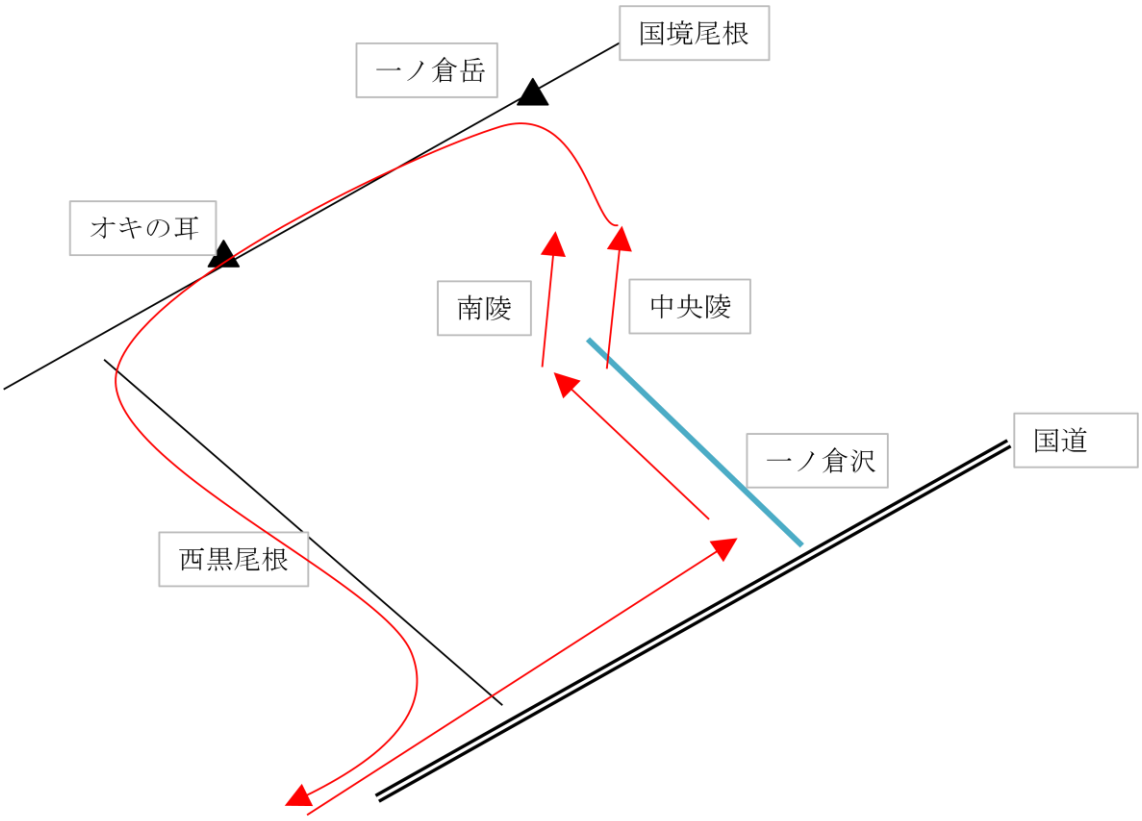
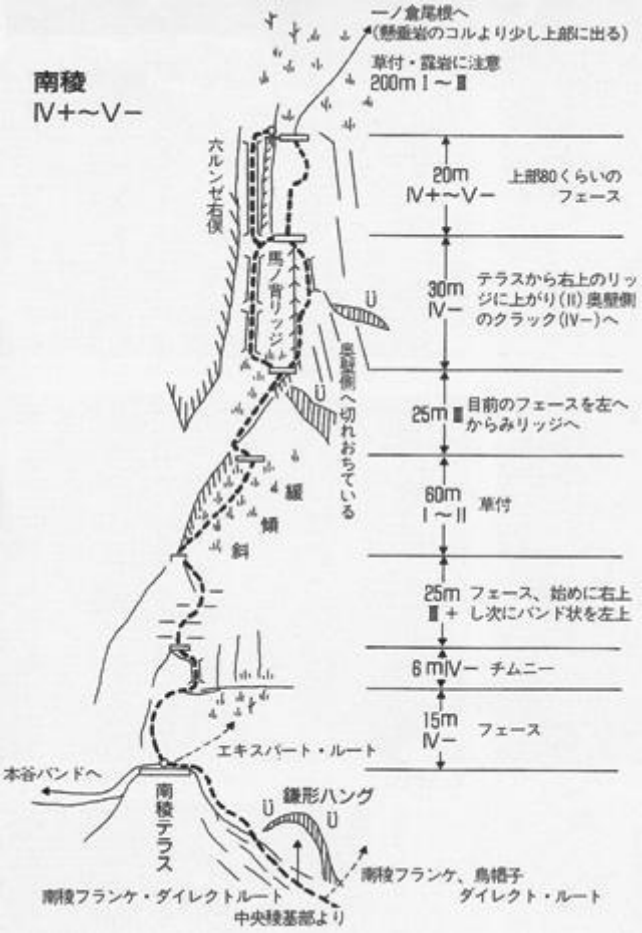
谷川岳　報告

日時　2012.8.19
場所　谷川岳　一の倉沢
目的　**谷川クライミング事始め**
山名　谷川岳
ルート　一の倉沢烏帽子岩奥壁南稜ルート
メンバー　勅使河原　リーダー
　　谷内
　　橋本
　　亀井　　著者
ルート図




概要
国道を歩き、一の倉沢出合い、沢沿いを歩き南稜取り付きへ。
四ピッチ登り、懸垂にて下山。




～谷川岳へ～

掲示板で谷川岳のお誘いを発見した著者は、リーダーに参加したいと申し出ます。

谷川岳と聞くと、何とも言えない緊張感と不安感を持ってしまう著者ですが、谷川岳・一の倉沢には憧れを抱いていました。

谷川への道中、ルート図や取り付きへのアクセスを見ていました。南稜と中央稜でどうしようかという話になっていました。

一般的には（一般というか事実ですが）谷川は魔の山などと呼ばれ、実際に遭難事故者数は世界一です。昔の話という感じもあるのですが、どうしてもしびれるネームバリューです。

南稜のページを目次で探すと、42 ページ・・・。なんともいやな数字だったり。

「帰りは温泉ですね」なんて話をすると、「帰ってこられればね」なんて言ってしまったり。

慰霊碑はまだまだ空きスペースがありますねーなんて言ってしまったり。

正直、著者は緊張していました。

～一の倉沢～

土合に車を止め、一の倉沢へ向かいます。一時間ほどあるき、一の倉沢へ着きます。

天気は上々。昼間には、暑さが増すこと間違いなさそうな天気です。

一の倉沢出合いにて、準備開始。看板の前で準備していましたが、著者は、一の倉沢の迫力に圧倒されていました。珍しく、一の倉沢の看板の前に写真撮影などしていました。

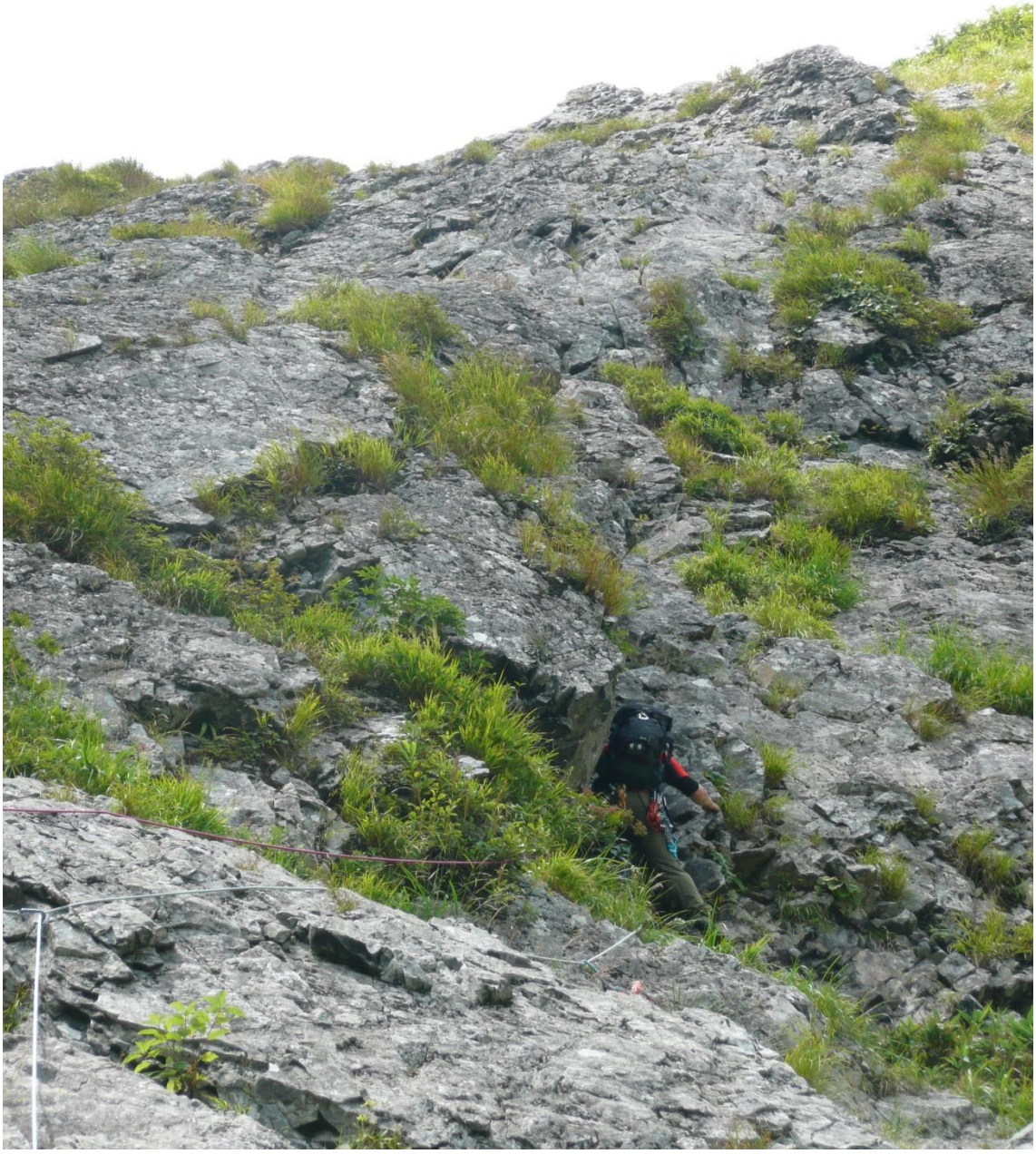
マイナスイオン値の看板は、特Ａランクでした。

出合いより沢沿いを詰めていき、途中トラバース。トラバースを間違い、急斜面の藪の中をあるっていると、間違いに気付き引き返します。引き返しのトラバースで、谷内さんが転倒。その後、谷内さんはずっと気持ちが落ちていました。

トラバースより、雪渓へ。雪渓を登りまたトラバース。トラバースを進むと、懸垂ポイントがありました。そこから、大きな雪渓へと降りて行き、雪渓の反対側にある馬の背リッジの取り付きに出る予定です。リーダーが先頭で懸垂しています。しかし、雪渓まで降りたらどうやって反対側までいくのかわかりませんでした。全員懸垂で降り、雪渓の切れ目にまで降りて行きました。大きくそびえる雪渓の穴の反対側に取り付きが見えました。ここから行こうとなって、雪渓の中へとはいっていきます。そびえる雪渓はどきどきです。上からは冷たい水がジャバジャバ垂れてきて、足もとも濡れています。雪渓の中はものすごく寒く、冷蔵庫のようです。風も強く吹いていて、冷気が体を冷やしました。なんとか、雪渓をくぐり、馬の背リッジへと取り付きました。

～馬の背リッジ～
馬の背リッジは慎重にいけば問題ないと思います。ありとあらゆるところに、ハーケンやリングが打ってあり、支点には全く困らないです。残置のロープや残置の懸垂ポイントも沢山あります。馬の背リッジの登りで不安ならロープを出してもいいと思いました。
馬の背リッジでは、とにかく暑さにやられてしまいました。気温は高く風もおだやかで直射日光です。ある意味ここが核心になりえる暑さでした。体力も程よく奪われ、水分は失われ、水の消費量が増していきました。

～一ピッチ目　四級マイナス～
いよいよ取り付きです。先行に２パーティーいましたが、私たちは出発が遅かったため、私たちが取り付きで準備している間に、２パーティーとも降りてきてました。最初の二人は、群馬の方。次に降りてきた二人の方の一人が、リーダーを見るなり栃木の方ですねと、声をかけてきました。リーダーには覚えはなかったようですが、足尾のアイスで会った、水戸の方とのことでした。リーダー山行に行くと、こういうことはよくあります。顔が広いです。
勅使河原さんとやないさん、亀井は橋本さんと組みました。
私たち二人が先行で、一ピッチ目は橋本さんがリード。
少し巻くようにチムニーを登り、一ピッチ目は難なくクリアー。



～二ピッチ目　三級プラス～
二ピッチ目、亀井リード。
スピードはとても遅いが、難なくクリアー。

～草付き　１・２級～
草付きは普通に歩いておしまいです。ロープはまとめて背負い、そのまま三ピッチ目の取り付きまで行きました。

～三ピッチ目　三級～
三ピッチ目、橋本さんリード。
フェースより右に巻いていく。
登攀隊長、物足りない感じで登る。

～四ピッチ目　四級マイナス～
四ピッチ目、亀井リード。
登り始めたが、ルートがわかりづらく、悩む。
途中からリッジに登ろうとするが、ルートを間違えているようだと、少しクライムダウン。しかし、なんとなくあっていたみたいで、また登り始める。が、ロープの流れがすごく悪くなってしまい、ロープを引き上げられず近くの支点でピッチを切る。
そこからが登攀隊長、四ピッチ終了点まで登る。この先、四ピッチ終了点の手前に、クラックがあって、そこを登ると書いてあったが、登攀隊長はクラックにいかず、クラック横のフェースを詰めていった。登攀隊長、四ピッチ目の終了。セカンドで亀井が登り始める。

クラックがあるはずと思っていたのに、亀井も直登でフェースへ。「これ四級か？」と思うほど、亀井苦戦。今日一番の核心になる。フェースにとりついてしまったので、すぐ横のクラックには戻れなかったが、なんとか登りきる。終了点はすぐ上にあり、そこでまた一ピッチを切る。

～最終ピッチ　四級プラス～
最後のピッチは登攀隊長のリード。
登攀隊長、めちゃくちゃ景色のいいフェースを登っていく。亀井、今まで味わったことない高度感にちびりそう。
登攀隊長、最高のナッツをきめたと言って、ぜひ見てくださいと、余裕の登攀。
気持ちのいいフェースを登りきり、亀井がセカンドで登る。手も足もほどよく楽しいクライミングで、なにげに亀井も楽しむ。途中のナッツを見学。岩にビッタシのナッツに、ぜひリーダーにも見てもらおうと、そのまま置いていく。
最後は一気に登り詰め、登攀終了。
化け物みたいな谷川の絶景が広がっていました。
烏帽子岩の近くで撮影。
後続の二人もすぐに到着。国境稜線にはでないで、懸垂で帰ろうということになりました。

～懸垂　下山～
懸垂も難なく繰り返していく。何回か懸垂し、南稜の取り付きまでいく。

下山路は同じ道を下っていく。
雪渓くぐりで、雪渓の下の岩に登れなくて苦戦。リーダーに助けてもらう。

一の倉沢の出合いで、ガチャ合わせをして、道路を帰る。
すでに日は落ち、ヘッドライトで歩く。
土合につくと、土合のリフトが営業している。もう、日も落ちた遅い時間なのになぜ？？と思っていたら、リフトの乗り場に、大勢の人が並んでいる。夜の星の観賞会というのが行われていて、夜９時まで特別営業しているのだ。完全予約制で一日４００人だそうだ。
帰りに湯テルメ谷川にて、体を癒す。しかし、営業時間８：３０で完全閉店するといわれ、急いでお風呂に入る。先に出た登攀隊長、８：３０が差し迫っていて、店員からすさまじいプレッシャーを浴びたらしい。
コンビニにてノンアルコールビールを購入。登攀隊長、南稜に取り付いている時に水を分けてくれたお礼にと、おごってくれる。ビールで乾杯！おつかれさま！

～感想～
季節が悪かったです。暑さにやられました。
はじめてのルートは、悩みます。先行でリードだと、ルートをしっかり見極める目を養っていないとだめだと思いました。

登攀隊長のやる気はすごいです。
一の倉沢はスケールがでかいです。有名な一の倉沢を登れて、改めて登攀の楽しさや緊張感を感じました。リーダー、登攀隊長、やないさんまた行きましょう。